

台風対策を万全に！！



これからの季節、日本列島への台風の接近が懸念されます。

昨年は、東北地方に4つの台風が接近又は上陸し、中でも台風10号の影響で、係留中の船の転覆・浸水事故が多発しました。

これら事故の多くは、荒天が予想されるにも関わらず、適切な荒天対策を実施していなかったことが原因となり発生しています。

◆ 台風の発生傾向

台風は、春先は低緯度で発生し、西に進んでフィリピン方面に向かいますが、夏になると太平洋高気圧のまわりを回って日本に北上してくることが多くなります。

8月は発生数が年間で一番多い月ですが、台風の進路に影響を及ぼす上空の風が弱いため不安定な経路をとることが多く、9月以降になると、南海上から放物線を描くように日本付近を通るようになります。

第二管区海上保安本部 海の安全推進室

宮城県塩釜市貞山通3-4-1

(代表) 022-363-0111

(直通) 022-365-9609



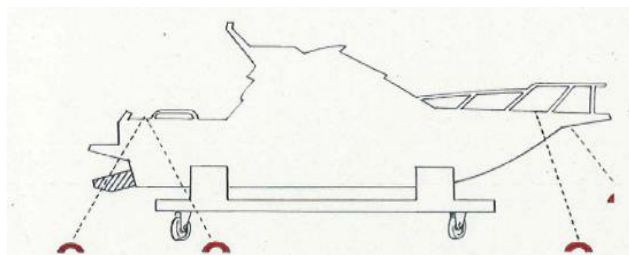
マリレよろず

検索

マリレ情報よろず屋URL>>> <http://www.kaiho.mlit.go.jp/02kanku/yorozuya/index.html>

①陸上保管

暴風による転倒などを避けるため、ロープでしっかり固定する等の対策を図る。



②静穏な海域に係留

風浪の影響を受けない岸壁等に船に係留する。
定係港での対策が難しい場合は、静穏度の高い隣接港へ移動する。

③係留索の点検・強化

古くなっていたり、擦り切れたりしているロープがないか点検をするとともに、必要があれば太めのロープに交換して係留する。

④ロープ擦れによる切断防止

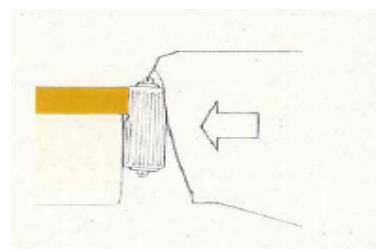
係留索が岸壁の角や船べりで擦れて切れるのを防止するため、擦れ防止策を講じる。



例：使用済みゴムホース、ウエス

⑤防舷材(フェンダー)の適正な設置

桟橋や岸壁と船体の間に適度なサイズ、数の防舷材(フェンダー)を施す。



⑥開口部の閉鎖・排水口(ドレン抜き)の確認

大量の雨水や海水が船内に入り込むと沈没することもあるため、開口部やハッチは確実に閉鎖しておくとともに、雨水や海水を船外に排出できるよう排水口の掃除をしておく。

⑦潮汐などの変化を考慮

気圧が低くなると、高潮が発生し海面が上昇することがあり、係留索の長さが足りないと船体が傾斜するなどして転覆・浸水することがあるため、高潮や潮汐の影響を考慮して係留する。

